

## 第2回 三朝町温泉を活用した健康まちづくり事業 ワーキンググループ会議 温泉部会（議事録）

【日 時】 令和4年12月23日(金)19:00~20:30

【場 所】 役場第2会議室

【参加者】 別紙のとおり

【内 容】 次のとおり

### 1 開会(村上企画課長)

失礼いたします。お待たせいたしました。定刻より少し前でございますけれども皆様おそろいになりましたので、ただいまから第2回三朝町温泉を活用した健康まちづくり事業ワーキンググループ会議の温泉部会を開会します。お手元にお配りの資料次第に沿って進行させていただきます。よろしく願いいたします。それでは次第の2番でございます。座長の挨拶ということで、青木地域振興監にお願いいたします。

### 2 座長あいさつ

どうも皆さんこんばんは。この冬一番の寒波ということで、これから警報でも出ようかというような空気がある中で、お集まりをいただきました。クリスマスも前ですし年末でもあります。こんな時期でございますので、大変恐縮はしておりますけれども、今夜は、先ほど村上の方が申しましたけれども、温泉を活用した健康まちづくりに向けた温泉の視点からのワーキングでございます。

先日、健康福祉の分野の方にお集まりをいただきまして、お話を伺っております。今夜は、三朝温泉により近い場所で、普段から仕事をされたり、生活をしておられるような皆さんにお集まりをいただきまして、皆さん温泉はご存知のように、その優れた泉質とか、売っていかうとするために、いろいろ今まで研究を積み重ねたり、医療の分野からのアプローチがあったりということでPRをしてきて、研究も進んできております。個人的には今回のプロジェクトは、こういった今までの積み重ねをどうにかして、町民を含める、人の健康にもう少し身近につないでいって、それが新しい町の評価になったり、町民にとって自信になったり、ということを目指す一つのこれが柱のかなというふうに理解をしながら、この役をやっているところでございます。健康福祉のワーキングのときにも出ておりましたけども、そういった意味でこの温泉を活かした健康づくりということをぜひやりたいし、期待も大きいというのを実感したところでございます。今日のワーキングでは、そういった期待を感じつつ、また、今度は温泉の利用という部分もあろうかと思いますが、皆さんからの積極的なご意見をいただきたいと思っております。天候のこともあります。遅くとも20時30分を一つの目安としておりますので、どうぞよろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございます。

### 3 意見交換

村上課長	ありがとうございました。では、次第の3番でございます。意見交換に移りたいと思います。このコーナーにつきましては、青木の方で進行させていただきます。では、よろしく申し上げます。
青木座長	それでは、始めさせていただきます。私もこういう座長という役は不慣れでございますが、皆さんにどれだけお話をしていただけるかということが、役割だというふうに思っております。頑張ってお進めさせていただきますので、ぜひその辺をお酌みいただき、積極的に発言をお願いしたいと思います。話に入る前に、お手元にA3判の資料をちょっと折り畳んだものをお配りしております。先立って、事務局の方から、こんなことでお話をしたいんですっていうことで、例えば温泉を活用した健康づくりについてですとか、必要と思われる施設の話、入浴施設等について項目立てをした資料を送っておりますけれども、少しわかりにくいのかなということもありまして、このA3判の資料を、追加で作らせていただいております。これを見ていただいて、話

	<p>としては、まず、真ん中書いておきます、目指すべき姿、いわゆる温泉を活用した健康まちづくりで目指すべき形というものをイメージしながら進めて参ります。</p> <p>左側に現状と書いておきますが、ここは前回の会議の時にもお話をしておりますけれども、現在の三朝町の状況ですとか、温泉の状況を書いたものでこれが出発点になっておるといってございまして、右側の欄には、目指すべき姿を、実現するために必要となる施設ですとか、環境、仕組みといったようなものが入ってくるということで、これをイメージしながら、お話を伺って参りたいというふうに思っておりますのでございます。</p> <p>真ん中の欄の一番上に、目標ということで掲げております。町民の健康寿命の延伸、並びに三朝温泉を活用した健康課題の解決ということでそれを目標に定めて、おりますので、それを元に進めて参りたいと思います。</p> <p>なお、委員の皆さんに加えまして、観光交流課の藤井課長が今日は座っております。ケースバイケースでコメントをいただいたり、参加をしていただきますので、ご了承いただきたいと思っております。</p> <p>それでは始めて参ります。ざっくばらんでございますので、肩の力を抜いてお話をいただきたいと思っております。まず、少し口を鳴らすといいますかアイスブレイクという意味もございまして、皆さんは温泉に近いところで、普段活動しておられますので、温泉を健康にとかいうことも感じられるでしょうし、そもそも皆さんの健康における、「感覚」といいますか「思い」といいますか、それから「温泉はどのくらい入ってるよ」とか、「温泉はどうだ」というようなことも含めてですね、普段感じておられる温泉と健康、自分の健康づくりというようなことで、コメントをいただきたいと思っております。順番にしますので、マイクが行くと思っております。では、まずアントニーさんからいただきたいと思っております。</p>
<p><b>アントニー 委員</b></p>	<p>皆さんこんばんは。アントニーです。自分の健康と温泉ですか。今一番、健康状態が悪い人材なわけです。自分の経験で見ると、長くこの三朝町に、滞在してるんですけども、やっぱり温泉に入ると、疲れがしっかりとれるなっていうふうには考えていますし、最近、やっぱり入ってないなっていう感覚があって、疲れやすい体になってるのかなって自分の感覚で思ってます。あとは、昔話になるんですけど、若いときには結構サッカーとかをいっぱいして、膝を痛めたんですけど、温泉に入ること、その膝の痛みが、完全になくなった時期があって。なかなか入らない状況になってその痛みがまた復活してきたっていうのがあるので、やっぱり入らないといけないなというふうに感じています。</p> <p>あと、仕事の中では、よくお客さんと話をすると、三朝温泉に来て、良くなったってことをよく聞きます。例えば、今週、ある方が来られて10日間ぐらい三朝温泉に滞在して、「肝臓がんだった」と言っていて、でも何とか、三朝まで来て、少しでも良くなったらいいなっていう思いでこられてですね、その肝臓がんの影響かどうかわからないんですけど、足がむくんで、「足が痛い」って言われて、「なかなか歩けない」って初日で言われてたんですけど、一昨日、大阪に帰るバスのチケットを買いに来られて、「足はどうなりましたか」って聞いたら、「大分よくなって、よく歩けるようになりました」って言われて、「10日間で、少し元気になったので、年末年始は大阪で過ごして、来年の1月4日から、また三朝温泉に来ます」って、こともありましたので、自分が温泉に入らなくても、少しでもその効果は感じられるところはあるなと思っております。個人差はあるだろうと思っておりますけど、自分も、最近入ってないなと思いつつ、もうちょっと入りたいたいと思っております。以上です。</p>
<p><b>御船委員</b></p>	<p>こんばんは。しゃべれって言われたら2時間でも3時間でもしゃべれますけど、どこに絞ってしゃべっていいのかなと思ってるので、概要をちょっとしゃべりますと、私の立場から言うと、温泉があるから、何百年と木屋が続いてると、そのおかげを享受しております。これから先も、この温泉を守っていく立場にあるということですけど、温泉の素晴らしさって言うてくれましたけど、実は何年も前に、三朝町が主催して成果報告っていうのをしましたよね。オーストリアのパラケルスス医科大学のモ</p>

	<p>ダー教授に来ていただいて、その時に、モダー教授がおっしゃったことが、「世界一の温泉です」ってことを言われています。自覚してないのが我々ということで、それと、広島大学に、正式な名前だと難しいですけど、早い話が原爆治療研究センターっていうのがあるんですね、要は国ですから。資料は表に出してくれないんですけど、「木屋さん、学会の中に入ってきて聞いていいよ」って言われて、実は聞きに行きました。堅苦しい会でしたけど、リップサービスもありました。その時におっしゃった言葉が非常に印象深くて、医学的に見たら、「世界一の環境にある温泉ですよ」という評価をいただいています。観光的に見たら観光経済新聞のぎりぎりベスト100に入るっていうようなところですけど、コロナの環境下で、この順位がかなり上がっておりまして。ってことは、従来の観光じゃなくて、健康志向の方に、お客様の価値観がシフトしてきていると。この温泉地がまさにこれからクローズアップされてくるころだろうなど。三朝町、それから鳥取県、山陰というのがまさにそういう地域だろうなどというふうに、観光的には個人的にはですね。</p> <p>小さいときに、岡本先生の医院しかなかったところに風邪をひいたら、「風呂に足つけて寝とけ」って言われて、汗かいて寝とったら、風邪が治ったんです。そんなふうに、小さい頃から温泉と生活っていうのはすごく密着しておりました。で、そういう意味でいくと、なかなか温泉と生活の中で、町民の人と触れ合うにはどうしたらいいですかってなかなか、今の時代になると難しいことで、その辺の接点どうしていくか、利用をどうしていくんですかっていうと、一概に答えは出てきませんが、その辺がうまく生活の中に温泉が取り入れられるといいなどは思っております。すばらしい温泉であるのとそれから周辺環境がすばらしい、どのぐらいいいかっていうのは、実は基礎調査をしております、空気のオゾン濃度が、銀座の1.3倍です。それから、川がたくさんあって水辺のイオンでマイナスがたくさんある町です。それから森のマイナスイオンがあって、全町ほとんどがウラン鉱脈ですから、素晴らしい健康的にはここで住んでいるだけすばらしいところだっていうことで、結果が出るとるわけですけど、その利用の仕方っていうのは、いろいろと県とか町とかのご協力があって、現代湯治っていうのやってみて。その入浴アドバイザー制度っていうラジムリエっていうのをしていますから、いろんなところから評価をいただいている、ラジムリエが、有料でできるぐらいにスケールアップするといいねっていうのがあって、今そこを一生懸命考えていると。そのぐらい、良いところですよ。</p> <p>もっと身近に享受されたいいな、それから温泉施設なり病院施設がありましたら、そこもうまく連携していく。それで意外と町民の方は知らないんじゃないかなと思っております。直接入るところからでなくても、前回三朝館さんがされたイベントの中に、子供たちがお風呂掃除をして、それから「お風呂ってこういうふう維持して管理しているんだよ」って話をして、それから入浴するっていう、体験のイベントされたんですね。そういうのも、意外と面白いなあと思っていて、あんまり肩肘張らせずにできることっていっぱいあるなと思っております。あんまり何をしゃべっていいかわからんとこであります。</p>
<p><b>岡崎委員</b></p>	<p>自分自身としてはもう30年前ぐらいから、町の作成委員会とか、デザイン委員会とか、3つ4つずつと委員会やってきた中で、もう一つ安田町長さんの時代に、95年から97年に、温泉とか全部、三朝にあるストロングポイントが何かって全部研究したんですけど、2年間。だけどそこで結果が出たのは、観光協会、商工会、旅館組合、農協全部の民意で結論を出したときに、健康と温泉ってのは結びつかなかった。それはなぜかっていうと、例えば町民を1,000人が毎日温泉に入ればそれは結果は出るかもしれないですけど、そんなことは到底無理なんで、たまに温泉に入ったから健康になるわけじゃないです。その辺のことがあってそれから町、こんなこと言っちゃああれですけど、町も三朝のラドンっていうのをPRしようとはその頃してなかったですね。これも何回も言ったんです。これは事実なんで。それで今回また温泉が出てきて、最初の1からもらった表っていうのを「あれっ」と、俺3回ぐらい見たんですけど、あれで何回も出てきているんですけどね。それで最終的に結論で温泉が一番利用価値あるのは、リハビリだ。そしたら医療系統なら三朝の、例えばラド</p>

	<p>ンがあります。それから、病院がその頃2つありました。整形もあります。1番重要な宿泊施設もあります。これは他の市町村にない4つがあると思うんで、これを全部かけ合わせてリンクさせて一番良いものが、もう2年間行ってリハビリで結論出したときは、日本でも最先端技術の町になる予定だったんですけど、これスポーツ医科学っていう分野で、極端なことを言えば、温泉によって、だから温泉病院なんかもうPR、自分とこに来て、怪我をしている人が来て、直せば早くなりますよとか、そういうPRの仕方をすればいいんですけど、ラドンに関してはやっぱ僕もずーっと観光協会なんかで言っていて、なんでラドンなんて珍しいもんを全国に発信しないんだってことですし、遊びで自分でタンクローリーを買ってちょっと遊ぼうかなと思って、温泉を県外に配達したり、出張足湯もした。それから、鳥大に研究してもらって何に効くか、温泉が、鳥大と共同研究した中で、70匹の健康なマウスを研究してもらって、結果、アトピーに対してのいい結論は出て、ある程度実証できるかなと思って、僕はアトピーに効きますよっていう、効きますよって言ったら駄目らしいんで、ある程度そのアトピーにはいい、それからリハビリにはいい。どう考えても、健康には、どうやって結びつかせるのがよくわかんないんですけど。</p>
<p><b>山内委員</b></p>	<p>よろしくお願ひします。温泉と健康というようなお話をつていうことだったので、ちょっとさせてもらおうと、皆さんご存知だと思いますが、三朝温泉の「あったか座」つていうのがあって、そこで演奏とか、郷土芸能をさせていただいてますけど、この「あったか座」つていうのは、昔から出演者は終わったら、毎月月替わりで、旅館さんのお風呂が入れるお風呂券をもらうんですよ。僕は毎回のようにつ「あったか座」が終わったら、旅館さんの方にお風呂に入りに行かせてもらったりとか、そのおかげもあって、いろんな旅館のお湯のくせつていうか、なんか感じがわかるようになってきて、やっぱここがいいなと思って、木屋さんへたまに行つて、自分家の風呂みたいに入らせてもらったりするんですけど。割と僕の住んでる砂原区つていうのは、共同浴場、温泉の共同浴場がつて、会員の人は自由に入れるんですけど、そういうこともあって比較的僕は結構温泉に入らせてもらつてる、結構恵まれてる環境なのかなつていうのをいつも感じてます。</p> <p>また、よく言われるんですけど、いろんな関わりがつて、倉吉市とか三朝町外の人と話をすると、「三朝の人つて肌のつやがいいよね」、「温泉があるけか」つて結構よく言われたりするんですよ。それは結構あるかもしれないなつていうのはよく感じるどころです。</p> <p>健康つていうことつていうと、毎朝僕ランニングをしますんで、温泉街とか、そういうところをずっとランニングしていますけど、山に囲まれて、川がつて、そして温泉街の中を走るつて、走らなくてもウォーキングをすつとかすごく環境的には、いいよなつて思つてまして。地元の人にもなんかもつてそういう健康増進じゃないですけど、進んでやつてもらつて、温泉に使つてもらつていうことができ、なんていうのを、この三朝町の定番の過ごし方みたいになるつていいのかなあつて思つたりします。</p> <p>もう一つ、温泉街で仕事をしていますし、NPO三朝温泉は、すーは一温泉がつたり、たまわりの湯の運営事業をしています。たくさんのお客様が来られます。当然、健康ではない方の方が多いです。僕もそういう方々と接することはすごく多くて、世間話をしていたりするんですけど、やっぱお客さんの中には、何回か通つて、そのあと病院に行つて見てもらつたら数値が良くなつたと、お医者さんに「どうしたんだ」つて言われるつていうことを僕も聞きますし、スタッフもよくそういう話を聞くつていうのは、この前も意見交換をしたときに出ました。結構そういう話がつあります。実際、三朝温泉に来たときには、家族に抱えられながらも歩くこともできなくて、何とかやつとお風呂に入つて、お風呂に入つたら、外で待っている家族のところに入れるようになったつて、自分で歩いていつて家族がびっくりしたつていうエピソードもつあります。そういう話をよく聞くんで、本当に体には良いんだなつていうことも、すごく、人の体験を通して実感してつあります。</p>
<p><b>米田委員</b></p>	<p>こんばんは。自分の話つていうことなんですけれども、生まれたのがもともと大阪で</p>

	<p>生まれて、その幼少期、実家が鳥取ということで、三朝温泉に帰ってきたときに、三朝温泉によく行って、あとは親の転勤とかでいろいろあっち行ったりこっち行ったり、海外留学して海外赴任したり、いろいろ経験をしてきたんですけども、やっぱり、海外に住んでると、浴槽ってというのが結構ありまして、日本に帰ってきて湯船に入るといってことに関しては疲れが取れますし、やっぱり心のストレスが癒されるというか、体の疲れも取れますし。その中で、三朝温泉や他県の温泉に入るといってことは、もっとなんですかね、疲れも取れますし癒されますし、先ほどアトピーのお話が出たんですけども。私自身も、今ちょっとアトピーの症状は軽いんですけども、あって、温泉に入浴させていただいたりとかしたらやっぱり症状は少し落ちつくというか、良くなっていくっていうのは、自分の経験として経験値としてはありますので。そういったところはおっしゃる通りかなと思っております。健康とどういふふうにくっつけていくのかっていうのは、これからまたいろいろ皆さんと話をしていければなとは思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p><b>藤井課長</b></p>	<p>どうもご苦労さまでございます。健康部会の方にも出席をさせていただきました。両方の会議に出席をさせていただいてちょっと思ったこと、取り留めがなくなっちゃうかもしれませんが、まず泉質がよい。それからこうやって症状が緩和される。それから、数値的にもっていうようなお話いろいろお話がある中で、多分、泉質が良いっていうのをPRするためには、木屋さんも岡崎さんもお話をされたんですけど、やっぱりみんながわかるためには何かあって思ったら数値が良くなった。とかっていうことが、一番理解しやすいのかなと僕は思いました。確かに、なんとなく良くなったという、数字じゃ表せない感想的な口コミっていうのも必要なと思います。ただ、そのバランスが大事なのかなということは思ったところです。数字の中でも、今、現代の人に突き刺さる数字は何なんだろうっていうことも、いろいろな数字がある中で、どうなんだっていうのはちょっと思いました。</p> <p>例えばすーは一温泉の話があったり、いろいろな旅館さんに泊まれて、実際そこまでご協力をいただいた方はないと思うんですけど、例えば、血圧が高かったですが、だいぶ低くなったんです。180から120になりました、みたいなことが口コミにプラスされてあると、生の声なのかなという気がしたところです。それで、温泉を使う人っていうのを考えたときに、町民だろうが町外の人であろうが、何か大きく分けると、健康な人が長く健康になるための温泉と、それから病気とかがあったり、病気がちの方が健康に近づくための温泉の使い方もあるのかなという具合に思ったところです。その中でいうと、やっぱり数字が独り歩きするのはちょっとどうかと思うんですけど、そういう部分があると、お年を召された方でも、子供さんでもわかる。わかりやすい。どれだけいいんだっていうのが、泉質が素晴らしいというのが、どれだけいいんだっていうのが、わかるのかなと。他の地域の方々よりも、三朝の町民の人は、温泉は他の方よりは近い存在なのかなと僕は思っているの、普段なら健康まちづくり事業という部分かもしれませんが、よその町だと。そこに温泉を足すっていうのは、うち独自のメリットを何らかの形で活かしたいというようなことなのかなと思っております。取り留めないですけど以上です。</p>
<p><b>御船委員</b></p>	<p>藤井課長がとってもいいこと言ってくれたんですけど、三朝温泉が出してるパンフレットに現代湯治パンフレットって、ここ資料付けてくださってるんですね。ここに実はちょっと結構難しく書いてあるんですけど、改定は難しくなっちゃったんですけど、最初は優しく出してあります。で、改訂版がちょっと難しくなっちゃっているんですけど、今言われたことが全部ここに出ておまして、究極が「がん」です。だから三朝地区は他地区に比べて非常にがんの効果高いですよとか、それから、SDというのは抗酸化、福祉健康課の方ならわかりますよね。だから、抗酸化作用機能っていうのが非常に高くなってきているっていう、こういうデータが出てますし、三朝温泉に宿泊されたお客様、ラジムリエの話を一切しないで、何も無い状態で滞在されてるお客さんを対象に、ストレスチェック80項目ストレスチェックをしております。全</p>

	<p>部、結果が出ておりました、岡山大学大学院の先生が、それを取りまとめられて、80症例のエビデンスが実は出ております。もう、効果がありますよ、結果が出ていますよ。ただ、国の方がそれを発表させないんですね。薬がいらなくなるとか、そんなことになっちゃうので。それでは、そういったことってのはこういうふうに取りまとめてあります。データとか数字化っていうのは、もうすでに出ております。ただ、温泉と町民の健康づくりって言ったら、究極最後、岡崎さんが言ったようなことの壁にぶつかるってことを踏まえて、じゃあ、どの程度何をしていけばいいかなっていう話なのかなって思ってます。</p>
<p><b>青木座長</b></p>	<p>まとめてというか、絞っていただきました。そうなんです。いわゆる、岡崎さんの言われた、健康という健康づくりという言葉と、温泉という意味、この出会いの話は、いわゆる健康という言葉は広い意味で使っていますので、いわゆる言葉の中で、評価になっていたリハビリであるとか、最近で言うとフレイル予防だったりとかっていうような部分も含めて包括をして、健康という言葉を使っておりますので、前回の健康の方のワーキングでも出ていたんですが、ターゲットの話になると、そういうことがリアルに出てくるのかなというふうには思っております。今、御船さんに言っていただきましたけれども、次の話をするわけですが、いわゆる温泉の効果、ある意味、現代湯治の、先ほどパンフレットの話もしていただきましたが、こういったところに出てくる、今回のこれはチラシですのでちょっと簡単にしか書いてないんですけども、現代湯治に出てくるメニューをこう考えて、これをどういう形で、町民が享受をして、要するに湯治の場所には住んでいるわけだというふうに理解をすれば、それを自分たちの活動とか自分たちがそれにより入浴が増えるとか、そういったことでやっていくのが一つのターゲットの話はありますけども、町民の健康づくりの要素に現代湯治のメニューがあるというふうに解釈をしたときに、先ほど御船さんに言っていただいた、できることとできないことがあるし、難しさもあるけど、という話もありました。そういう考え方で、健康づくりを、町民の温泉を活用した健康づくりをやっていこうとするときの課題といたしますか、メニューに対する課題とか、この辺はできるけどなあとか、こういうもんがあったらええなあとかっていうようなことについて、ちょっと言葉をいただきたいんですけども、その辺でちょっとコメントできる方がおられたらお願いしたいんですけど。御船さんですかね。</p>
<p><b>御船委員</b></p>	<p>あればいいのは、いろいろあればいいにこしたことがないんで。例えば、この前もNPOの理事会か総会で、たまわりの湯が維持できないというような話が、本当はあそこの場所に風呂があったら、町民の人ももっと利用しやすいわけですけど、そこが今後将来維持できなくなってきたら、公共のお風呂場がなくなってくる。じゃあ、公共の風呂、新しく作るんですかって、それも大変な話で旅館の風呂に自由に入ったりさせてくださいって言ったら、しのぎを削って生き延びるために今必死になってやってくるビジネスの中で、なかなかそれは難しいよねって話になって、そうなるってと、今、一般に公開されて入って、自由に使えるっていう、「株湯」っていうのがまずあるってことですけど。</p> <p>その設備の以前に、町民の人も含めてですけど、まず役場の人も、どのぐらい温泉の知識があって、三朝温泉の歴史とか、いいところ悪いところを含めて三朝温泉をご存知なのかってのを逆にちょっと聞いてみたいな。何をどういうふうにしていきたいんだって、自らが持っておられるかってのを逆に聞きたいんですよ。丸投げではよくないなと思うんで。そういう中で、山内さんもおっしゃっていたけど、他所から見ると、医療施設、温泉医療に特化した医療設備もあり、温泉もあり、世界一の温泉があり、心と体って三徳山があって日本遺産にも認定されて、絵に描いたような場所なんで、それをどう生かすか。まずその前には、いろんなことを知っていただくのが大事なんじゃないかなと思います。知ることで、だんだん、理解が深まっていて、していればそれほど三朝が、温泉が好きになるっていうこともあるし、その辺で、ラジムリエっていうのは非常に皆さんに役立つ。お手伝いできるんじゃないかなと思っています。そこから先はまたみんなで知恵を出しましょう。そうすると、町民</p>

	<p>の人でも、身近にそういうことがあって、そういう環境の中で、エビデンスとしては裏付けがこういうことがあって、じゃあ自分はこういう暮らし方をして、どういう温泉の利用の仕方があるかなんていった発想になるんで、こっちが一生懸命どうぞって言ったって、その気になってもらわなかったら続かないっていうのがあるんでね。その辺の、まず、前段がちょっと、きちんとあった方がいいのかなっていう気がしています。</p>
<p><b>青木座長</b></p>	<p>ありがとうございます。いわゆる温泉をテーマで、温泉を活かした健康づくりということをする、やっぱりあると思うんです。温泉に入ることとか温泉の施設を作ることとは別に、いわゆる三朝温泉、温泉を理解をするということが非常に。健康部会でも出てましたけれども、田村委員が言われていたことなんです、県民、町民、どれだけ温泉のことを知ってるだろうかというような言葉も出ておりましたので、一つそういう視点も持ちながら、お話ししていかないけんのかなと思いますし、言われることを、十分考えないけんのかなというふうに思います。</p> <p>今、ラジムリエという取り組み、先ほど現代湯治の話を持ち出しましたが、ラジムリエの方を、例えば、そういう町民の健康づくりの講師といいますか、アドバイザーというか、そういう形での生かし方というのも一つ可能性がありますし、逆に言うと町民、一般の方も、ラジムリエになれるような感覚で物を考えたり勉強したりする、温泉を学ぶのは必要なと思いますが、そういった意味でラジムリエの皆さんの関わりとか、逆に町民の方の参加もありだと思えますが、御船委員どうですか。</p>
<p><b>御船委員</b></p>	<p>ラジムリエっていうのは、現代湯治を立ち上げて、10年ちょっと経ちますけど、約100名が取得されました。現在、70名ばかりが活躍しておられると。30名は退職されたりとかリタイアされてますので、取得されたけど活躍がされてないと。これは各旅館から出てきてもらってますけど、三朝温泉に関わるお仕事をされている方とか、興味のある方っていうのも少し門戸を広げております。だから、山内君も資格をとったんだよね。(はい)</p> <p>岡山大学の教授から医学的な知見でお話をいただきました。それから、ラドン泉っていう放射線ですので、放射能の知識の話を、原子力開発機構の主任研究員の方からお話いただきます。その辺がプロ、専門的なお話で、今度はコンシェルジュ的な話、それから、対お客さんとの話、医療従事者じゃないからここまでは言っていないけど、こういう表現はいけませんよ、という具体的な話を私はさせていただいてるんです。最後、簡単なペーパーテストがありました。初期の頃は、何人かちゃんと数揃えないけんっていうテストはありませんでした。</p> <p>仕組み的には自動車学校で免許書を取得しましたよ、みたいなレベルですので、そこから目指せレーシングドライバー、F1ドライバーってブラッシュアップしてもらわなきゃなわけですね。その更新、講習会っていうのも、やっております。ですからレベルは格差があります。基本的には、自分の宿の温泉施設をきちんと説明する。それから、効能効果をきちんと説明する、安心安全な入り方を説明する。そして、人に合った形の過ごし方を、できれば話をしあげたいっていうのが、簡単どころです。</p>
<p><b>青木座長</b></p>	<p>ありがとうございます。それでは、話の向きを変えてみたいと思いますが、健康の一つの要素の中に運動とか、スポーツとかということがあって、さっき岡崎さんから、以前の取り組みの中で、スポーツ医科学という言葉もありましたが、具体的に形にはならなかったんですけれども、その辺の話をもう少ししてもらえますかね。というのが、健康ワーキングの方でも、例えばスポーツのリハビリといいますか、そういったスポーツの疾患といいますか、ああいうものに対しても、効果があるのではないかなと言われた方もあったので、僕は以前に岡崎委員と一緒にその話をしたことがあるので、先ほどちょっと言葉だけ出しました。経過なりを少しお話していただけますか。</p>

<p><b>岡崎委員</b></p>	<p>さっき言ったように、みんなが危機感を持っていて、25～26年前に商工会から3団体、それから、農協から婦人部から全部が集まって、将来何をしたらいいかっていうのを考えましょうと。その中で、さっき言ったように、4つですね、温泉等。どうしても僕がデザインする場合に経済効果を考えてしまうんで、リハビリに特化した温泉っていうのが、リハビリに特化したってのはわかっているんで、それをすると経済効果も生まれるんで、今みたいな観光でお客さんが来るんじゃないくて、全国すごい怪我人が人数いるんですよ、ケアをする人って。その西日本の最先端技術のある三朝町にしようと、プランができてたんです。それでそ視察を兼ねて、愛知県の最先端のスポーツ医科学研究所へ行って、研究した結果、お互い連携しましょうと。交互に何か協力しますので、もう具体的な話までなっていたんですけど、結局三朝町がそんなことはしないと。ご存知のように町は、儲からなくてもいいとはっきり言われましたからね。</p> <p>スポーツ医科学でなぜいいかっていうと、さっきも言ったように、経済効果ですね、旅館が潤ってもらわなきゃいけない。旅館が潤うことは、その下の納入業者も潤う。それからスポーツをしとる人達にとっても三朝へ行けばと評判になるんで、三朝に行けば早く治るとかね、骨折が。</p> <p>それから視察に行ったところには、そういうリハビリの陸上競技場、野球場、スポーツ施設、あらゆるものがある、陸上も400メートルの、しっかりしたものがあって、宿泊施設もある、体育館もある。ここには、ちょうど僕らが行った時、全国からそういうのが来てて、旭化成だったかな、宮崎の怪我人もいて、地元の高校も来てですね、そういう西日本の代表的な町に三朝町をしようと。今でも僕は思っています。これはもう通年通して、流行り廃りってないので、観光の季節とかそういうのなくて、怪我はもう1年中誰かがやっているんで、評判になれば三朝に行って、行けば早く治ると。スポーツ選手って絶対に直したいんですよ。僕は子供の頃からずっと20年ぐらい野球ばかりやってたけど、やっぱりスポーツ選手でそういう繋がりがあって、あそこが早い、早く治ると言ったら絶対広がるんです。これを言ったらまた怒られるんだけど、研究して2年間ぐらい研究した中で、湯治も考えました、当然。だけど、今言っちゃあ悪いけど、湯治を前面に出すっていうことはイメージダウンになるんですよ、これ。秋田の玉川なんかがそうなんだけど、湯治を前面に出したら、経済効果は生まれないんですよ、お金を使わないんですよ、湯治系統に。何かスポーツ系統で、その医療に特化したものをすれば、はっきり医療に特化してリハビリが三朝はいいですよって具体的なものをPRしないと。それが三朝にとっていつも足りない部分で、こだわりのないんですよ、三朝には。</p> <p>今言ったように、その時も湯治は研究しました。湯治は、言う必要なくて、温泉＝湯治なんで、戦国時代から。別にそれをわざわざ言う必要もないし、湯治で来られて経済効果を生まれますか。1ヶ月2ヶ月怪我なら、治りますよね、1ヶ月で何でも。湯治は、いつ治りますか。じゃあそれによって、納入業者が儲かれますかと。全国で調べたんですけど、湯治でそんなに流行っている温泉ってないんですよ。</p>
<p><b>青木座長</b></p>	<p>はい。観光の話は今日はちょっと置いておきます。湯治という言葉の云々というのはあれですけども、いわゆる湯治という機能と項目立てと、町民の健康づくりを進めるうち時に、パーツが役に立つのではないかという、理屈でございます。</p> <p>それでは先ほど御船さんの言われた、ラドン濃度ですとかマイナスイオンですとか環境の話がございました。実は、先般みささ村地域協議会で、中村先生がお話をされたときにもその話があったり、外部の方に来ていただいて三朝温泉の勉強会みたいなことをやられる時にもそういう話が出ています。マイナスイオンとか環境、ラドンということになりますと、いわゆる温泉との組み合わせでいうと、全長がフィールドになるということもありますが、実際にラドン濃度とかは、そういう規模では測ってはないんですけども、その辺については、これもまた御船委員になってしまいますけれども、うまくPRできていない、PRというか数字も持っていませんから。そういうことをやれば、可能性があるかと理解してもいいということなんですよ。</p>



<p><b>岡崎委員</b></p>	<p>例えば、ラドンが100だったら次の日もズーッと100ではない。それが10になったり200になったり。だからその辺も考慮しとかなきゃいけないし、今ついでに言うんだけどその、数字的なもんね、研究して、僕と鳥取大学なんですけど、そこで出た結論としては、美肌効果と、アトピー性皮膚炎の改善効果と皮膚バリア効果っていうのは、数字的に表とか、たくさんもらってるんでそれは出ています。その辺は知っておいて貰えたらたら、いくらでも資料を出します。</p>
<p><b>御船委員</b></p>	<p>今、岡崎さんが言われたのは鳥取大学できちんと三朝町から依頼をかけて、きちんと研究したエビデンスなんですね。これはどういうエビデンスかっていうと、1週間以上経った温泉、ラドンが抜けちゃった時のラドンがなくなったときのデータなんですよ。ラドンがなくてもここまで効いてますよという裏付けで、そういう効能・効果があるんで、医学部とかそういうところで出してもらおうと、これは医療的なエビデンスですよということが言えるわけです。</p> <p>青木さんが言われた話がちょっとどうなんですかね。ラドンがどうなのか。実は、どこから何を話してかっていうのはいっぱいあって、出しにくいんですけど、どのぐらいいいかっていうのかを簡単に言いますと、広島大学の原爆中央研究センターの先生が来られた時の話をざっくりしますと、三朝温泉の周辺のラドン、自然界に出てくるラドン、それから三朝温泉の温泉のラドン濃度っていうのが、非常に医学的に見て一番バランスの良い濃度ですよってことを言われて、じゃあどのぐらい違いますかって言ったら、よく医学の先生を目指すときの学生が放射線を勉強するときには、西のオーストリアのバドガシュタインっていうのが出るんです。この学会で来てもらった時の大学のある町ですよ。それから、東の、日本の三朝っていうのが必ずこの2ヶ所が出るそうです。のぐらい違うかっていうと、三朝は何の知識もなくとも制限かけなくても、とにかく三朝で過ごしておけば享受してるんです。ところが、バドガシュタインは、病院に行って診察受けて処方箋を取って、3日に一度その洞窟の中にトロッコで入っていくわけです。三朝温泉のラドンの濃度100倍あるんです。3日に一度受けて、大体3週間、病院に滞在してくださいというようなことがあって、その人にとってどのぐらい効果がどの持ちますかっていう、そんなデータも実は全部あるんですよ。だから、どこに特化して、何をやっていくか、どうしたらいいのかってことを持つことが大事かなと思ってるんですけど。</p> <p>今ある温泉病院の施設でも、とってもいいものがあるんですよ。その温泉医療の先生もいらっちゃって、そういった形で、町民にそういった形の還元していく仕組みを作るっていうのが、この趣旨の中にあるんじゃないかな。町として、ビジネスとして考えるなら、スポーツ医療ということで、超一流選手サッカーのワールドカップ終わったら、体の疲れとか痛みは1週間三朝温泉で過ごしてもらったら、ものすごく早いですよと。次はベスト8だ、みたいなそんなことの受け入れの仕組みも、やっぱり日本のトップクラスの先生も来てもらう、栄養学の先生も来てもらう。スポーツ医学の先生も来てもらう。そのぐらいのレベルでないといけなくなってくると、目指す価値はあるのかなとは思ってます。両方のそのレベル違はうんですけど、うまくやればできないことはないかなとは思っています。</p>
<p><b>藤井課長</b></p>	<p>今のお話の中でお2人のお話を含めて、例えば、スポーツで怪我をした、病気どころかが悪い、リハビリっていうことになると、リハビリは結局、素人なこと言いますが、医療かなと思ったんです。</p> <p>例えば、こういった形の資料がある中で、これを見ると、例えば温泉を使ったこういうリハビリだ、っていうのと、例えば温泉の浴槽の中でこう体操したりするというのは、リハビリではなくて、多分お医者の話じゃなくて、これは多分体育指導員さんとかインストラクターさんとかがやる。リハビリではなく、健康になるためのもんなんかなと。例えば病気を予防するとか、なんか僕はそんな感じのイメージがあったんです。それは今の皆さんのご意見を踏まえて、商売としてするということであると医療の、患者さんのリハビリっていうことになると医学の分野がもっと充実せんといけんのかなと。でないと今のままでも素晴らしいのかもしれないんですけど、そのいろいろな</p>

	<p>方のリハビリをっていうと、僕が素人だと思うと、何かすごくもって、その医療の方に、ギューッと力を入れんといけんのかなという気持ちもしました。</p> <p>そこは多分、町がこの健康まちづくり事業として、どこを目指していくかっていう話の部分と、それから商売としてやっていこうかっていう部分の天秤の話だと僕は思ったんです。そう考えると、健康部門のお話と、今回の温泉部門の話とを踏まえて、整理を事務局の方でしていくのかなと。</p> <p>一番最初に、青木座長がお話をしたラドンの濃度の話でいうと、ちょっと補足で説明をすると、三朝温泉でお風呂入るとずっとラドン100じゃないよ。毎日毎日同じじゃないよ。季節によったり、気候によったり、いろんなことによつて、110になったり90になったりします。</p> <p>三朝だけじゃなくて、例えば大瀬にもあったり、温泉が砂原にもあったりで、その濃度も多分違ってくると思います。コーヒーで言うと、木屋さんの辺りはブラックコーヒーで、砂原の辺はアメリカンとか、その濃度も濃い薄いが多分出てくるんじゃないかっていうようなご意見があった。それでいくと、例えば、三徳山の辺はコーヒーの味もひよっとしたらしないぐらいかもしれないけど、ひよっとしたらもっと濃いかもしれないっていうことも、それは言われて気付いて、確かにこの辺しかないよねっていう、温泉が出るからっていうことしかなかったんですけど、一番最初に三朝町全部がウラン鉱脈だというような話からすると、全然調べてないので何も言えないんですけど、そういうことも、学術的な地質学的な話になっちゃうんですけど、今研究するのも、調べてみるのも一つありなのかなと。</p>
<b>御船委員</b>	<p>ラドンの量だけでいくと、あるところの小川はラドン含んでいるよ、とかね。それから、何とか旅館の玄関先はすごいよ、とかね。水と岩石等の相互作用っていう国際学会があったときに、旧通産省の技監さんがうちの旅館を調べられて、例えばうちのオンドルだったら、人形峠の鉱脈の中と同じ数値だよとか、中庭のところには地表面がその3分の2ぐらいあるよとか、ある程度もうデータが出てると思います。ただ、そういうふうには、温泉だけじゃなくても、露出してる場所にも出てるとか、それから小川にもそういうのが含まれてるよ、とかが結構あるんですね。だから、ほぼ知らないうちに享受されているってのはあると思います。</p>
<b>藤井課長</b>	<p>たまたまそう思ったのが、僕が教育委員会にいた時に、もう御船先生がなくなっちゃいましたけど、「毎日同じ風呂に入るのもええけど、違ったところに入ると、濃い薄いがあるから体に良いんじゃないかと私は思う」という話をされていたので、なるほどなっていうことをちょっと思いました。</p>
<b>御船委員</b>	<p>それは森永先生のころから言われておりますね。1週間単位で4サイクルで4週間、これが、温泉の治療の最大値。だからあのバドガシュタインとかは3週間でやるんですけどね。そうすると体が慣れてきちゃって、水で沸かしただけでも刺激あるよというようなことも言っておられました。</p>
<b>岡崎委員</b>	<p>町中にラドンがたくさんあるっていうのは、これ数字である程度わかってるんで、自分が調べた、町内の30ヶ所ぐらいかな、三徳の方から中の谷の水が出てるところとか、穴鴨の先の方も全部調べた中で、びっくりしたんだけどどこにもラドンが入っている。大小はあるけども。さっき言ったように、片柴のところは、3回ぐらい調べたら全然すごい高い時があって全然ない時もあるし、けどそういう、3地区30ヶ所ぐらい、これ、保険事業団で調べてもらったんで、表もある。ほとんどラドンが入っている。だから、提案したんです。米を作られている人には言ったんだけど、うん。ラドンが入ってる。数字的に出してあります。</p>
<b>藤井課長</b>	<p>多分、もっと僕が岡崎さんにいろんな話を聞けばよかったですけど、おそらくその事実をほぼほぼ、理解できていない、知らない職員が多かったという部分も、うちらがいけなかったところなので、そういう部分の事実を逆に勉強させていただいて、改めて使わせていただくというようなことかなと。</p>
<b>青木座長</b>	<p>ラドンが入ってるお米というのは、OKなんですか。言い方は変ですけども、売りになるんですかね。</p>

<p><b>岡崎委員</b></p>	<p>ちょっと、うたい文句でいいかなって言っただけなんで、ただ問題は、ラドンの成分の中で例えばミネラルウォーターとか、清涼飲料はそれで調べると、19項目、26項目あるんですね、必ずね窒素とフッ素が引かかるんですよ、ラドンって花崗岩から出てくるんで、それを引っかけられない温泉を探そうと思って30ヶ所ぐらいを採取して調べてもらったけど、全部引っかけます。だからそれが例えば食品衛生であったらうるさいんだけど、米は何になるんだ。それをクリアすれば、例えばラドンで作った米は他より美味しいとか、なんでもうたっちゃえば勝ちなんでね。</p>
<p><b>御船委員</b></p>	<p>うたっちゃえばいいっていう話は確かにそうですけど、青木座長が心配されることを言っておきますと、ラドンはご存知でしょうけど復習という意味で。元はウランです。46億年経って何回か変わってきてラジウムになります。ここまでが金属性鉱物です。ラジウムになってから1600年経つと、ラドンガスに変わります。ガスとして発生してきます。それが水に溶け込めやすいという性格があって温泉と一緒にですから、他の水と一緒に流れて出てきてると。空中に、わき出てきて、空中に出てきた時から半減期って減っていくわけですね。何百種類と放射線がある中で、何万年残るものもありますしね、何千年何百年何十年ってのがあって、考古学はそれで知財交渉してるってのがあって。ラドンはどのぐらいですかって言ったら、半減期が3.8日です。ですから1週間も経ったら全くありません。半分半分半分って、数字上はゼロにならないんですけど、随分なくなっちゃいます。だから、稲が育って、水が回って土地があって、そういう時に刺激を受けながら、育ってるって米の意味だろうと思うんです。ですから、米の中には放射線が残ってるわけじゃないです。安全です。さんざんマスコミに叩かれたんで。うちは代表して、そういうことは全部対応しております。</p>
<p><b>青木座長</b></p>	<p>はい、変な質問をしたなというふうに思っておりますけれども、そういう意味では三朝温泉の効果、こういう形で書いてあるんですけども、いわゆる歴史という言葉が合うのかどうかもわかりませんが、三朝温泉を科学するみたいな、何て言いますか、見せ方とかですね、理解の仕方とか、PRの仕方とかっていうようなことも本当はできるんじゃないかなと思うときも、あるんですけども。</p> <p>割とあるところにはあるんですけど、皆さんの中にはせいぜいこのペーパーになるぐらいまでが伝わっていますが、それ以上のことは割と伝わってなかったりするというようなこともあって、そういうことも、大事なかなというふうには思ったりするんですけど、いかがですかね。割と三朝町にはそういうところがないという気がしてまして、歴史ということもありますし、三朝温泉ではそういうことがすごく大事な、ある意味、ミュージアムかなというふうにも思うんですが、その辺はどう思われますかね。</p>
<p><b>御船委員</b></p>	<p>実は、日本人と温泉って切っても切れないんですよ。何かあったら温泉に行こう、辛いことがあったら温泉に行こう、いいことがあったら温泉に行こう。昔から火山国で温泉の恵みを享受してたってことでしょうけど、そういった温泉地があって、温泉文化っていうのを、上手に活かして健康づくり、まちづくりするってのも一つの手かだと思います。その辺の話の中で、いろんな、楽しみとか面白さもあるわけで、そこでいろんな人が三朝のことをもっとより知っていただくということがまず大事じゃないかなと思ってますね。役場の人も含めて、あまりご存知じゃないような気がするんですよ。そこを知っていただくと、ほっといてももっと活用されるんじゃないか、利用されるんじゃないかなとは思ってますし、そのときには、正しい知識、知見を持っていろんな効果効果もあるんだよっていうことのお話が、聞けていたら、あとは自分にとっての過ごし方、健康的に過ごすとかより、病気をしない、けがをしない健康づくりを目指そうとか、腰が痛い、膝やっちゃったみたいな人をどうやって痛みを取ろうとか、お医者さんにかかる前に、鍼に行ったり、整体に行ったりしてるんだけど、プラス温泉に行ったらもっと良くなるんじゃないかとか、何か活かし方ってのは出てくるんだろうと思うんです。その中に、町と温泉というものをうまく、ベストミックスして仕組みを作るってことは僕は大事だろうと思ってます。その辺のところね、それは温泉文化の知識の面と、実際に利用するときの施設的な、それから、</p>

	今あるものをどう活かしますかという仕組み、そこを知恵を出して欲しいなど。
<b>青木座長</b>	<p>はい。そういう整理といいますか、仕分けが非常に重要なことというふうには思っています。それぞれに、魅力がありまして、といいますのが、今まで三朝町の健康対策の中で温泉という文字はほぼ出てきていないというふうには私は思っております、岡崎さんの話で、健康との話はあるとしても、そういう意味では今回、いいタイミングだと思うので、そういったものを加えながら、御船さんにいただいた分野から岡崎さんの言われた分野、それぞれが持っておられる、活用すべき場所というのがあるのかなというふうには思いますので、ぜひこの後、ワーキングをまとめていくんですけども、また必要な情報なりを伺いにも行かせていただきたいなというふうには思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。</p> <p>なかなか皆さん全員からということにはなっていませんが、話をさせていただきました。今言ったように、少しこの後お時間をいただいて、次のワーキングの会につなげるための素案というものを、事務局が作っていくことになると思っています。</p> <p>それではですね、まだお話を伺えてない方もございますけれども、このあたりで一区切りということにしながら、いきたいと思っておりますが、お話をいただいた方ちょっとお話がいただけなかった方ございますけれども、今日の最後に、皆さんから一言ずつ、お話、感想なり、ご意見をいただいて、終わりにしたいと思います。アントニーさんからお願いします。</p>
<b>アントニー委員</b>	<p>はい。まだ知識が浅いものでいろいろとメモして、勉強させてもらいました。今日の話の中でリハビリという言葉、キーワードになったのかなと思って。具体的にね、スポーツ選手の怪我のリハビリとかの話もあったんですけど、ストーリー的には、いろんなことに結びつけられるかなと思ったりして。疲れたら、寝て元気になったらそれもリハビリなのではないかと思うので、三朝町が、心と体のリハビリの町になれるんじゃないかと、今日感じたところで、いいアイデアなのではないかと思ったところです。</p> <p>あとは、三朝の歴史を守りながら、歴史をアップデートして、今の時代に合った、売り方、三朝温泉が必要かなと思ったりして、あとは一つの課題としては、観光と健康っていう、言ってもいいのかよくわかりませんが、22件の旅館の中で、健康とかラドンとか湯治とか、関心のないところもあれば、うちは観光だけで、他のところでは、湯治とかラドンだとかにしっかりとした旅館を作りたい方もいらっしゃるかなと感じているところなので、どのように皆さんが共存して自分のところがちゃんと生かして、町として一段と成って、よくなっていけたら、うちは成果がわからないですけど、知恵をいただいて、頑張っていきたいと思っております。</p> <p>話が違いますが、いつも疑問に思っていて、町民の方の話はよく出てくるんですけど、町民の方が本当に三朝温泉の良さを知ってるのかっていう疑問があるんですけど、そもそも関心を持ってくれているのかっていう、情報とかは出てるので、例えば現代湯治のパンフだったり、本当にそれに関心を持っていらっしゃるんだとしたら、まずは自分で調べるのではないかと思ったりして、なので、いつも町民が知ってるのかって、それが誰のせいなのか、役場なのか、協会のせいなのか、旅館組合のせいなのか、誰かの責任じゃないですけど、そもそも知りたいんだとしたら自分で調べてみたらっていう、言ってもいいのかよくわからないことですが、疑問に思っているところです。とりあえず以上にしとくかなと思っております。</p>
<b>御船委員</b>	<p>しゃべりすぎたんで、今日は知見の中の町民の健康っていうのを絞ってしゃべるんですけど、いろんなことがあるんですけど、基本的に三朝の温泉っていうのを知識をやっぱり持っていたらいいなっていうのがまず最初にあって、いい温泉だって言ってますけど、何が良いんですか。一番良いのは、微弱放射能によるホルミシス効果です。よってことを知っておいて欲しいな。身近に何ですかって言ったら、赤ちゃんがおむつかぶれしましたら、三朝の湯に入ったら直ります。だから難しい指導されなくても三朝の湯でおケツを洗ってきてくださいというようなところが普通にご指導できるようにしたら、温泉が活かされるんじゃないでしょうかね、と思いました。</p>

<b>岡崎委員</b>	結構しゃべり続けちゃったね。うん。一つ疑問は町が本当でそれだけ温泉を大事にしてるかっていう、ずっともう何十年疑問なんですけど、例えば僕らが自分が調べてその研究したりしたらもう、本当は温泉を、ラドンが大事だと町が思ってるんなら、フランスの、町がラドンを研究する施設とかね。それぐらいするんなら、理解はできるんですけど、何か今回も降って湧いたように、ラドンと健康っていうかな。さっきの誤解ないように、スポーツばかりって言ったんですけど、要はリハビリ健康、それは、スポーツじゃなくて、住民に対しても言える、住民だって怪我をしない住民はいないですから。三朝の町民、住民は怪我をしたら早く治って、元気な町民ばかりだよみたいになれば、この研究の中で、前にも言ったんだけど、アトピーに効くっていう、一応こういう資料が出てて、だからそういう、特化した部分をもっとPRするべきで、そういうPR方法をこれからした方がいいんじゃないかと思います。
<b>山内委員</b>	はい。三朝温泉っていう温泉を活用して、いかに三朝町民に享受するかっていうお話をされてると思うんですが、今日は、御船さんと岡崎さんのお話の中から、温泉の効能であったりとか、これからの可能性であったりとか様々なことがあるんだなっていうことがよくわかりましたので、これを町民の方にしてもらうためには、よりシンプルに、より身近に感じてもらえるように、身近な町民の方にとっても、その温泉が身近なものとなるような取り組みをすればっていうか、考えていけばいいのかなと思います。
<b>米田委員</b>	今日のお話をお伺いして、先ほど出たんですけれども、町民の皆さんの声をたまに耳にする、温泉に入りたいけども、各旅館によって料金が違うので、なかなか入りた温泉には行けないっていう声を最近耳にするようになりまして、何かそういったところを、町民価格でお風呂の日でワンコインで入浴できるっていうようなこともしてるんですけれども、それ以外に何かできることがあるんじゃないかなということも思っ、今日お話を聞かせていただきました。以上です。
<b>藤井課長</b>	僕もかなりしゃべったんですけど、一つ、木屋さんのお話の中で、おむつかぶれの話があったと思うんです。僕はもう赤ちゃんいないのでわかんないんですけど、それはすぐできるんじゃないって思ったんです。なんか、赤ちゃんができたら積み木をあげるとかいろいろあるかもしれませんが、プラスすればいい話なので。あとは、家族で入るような形がいいのかどうなのかは別にして、多分それが広まる口コミの最たるものなのかなとも思ったので、それが多分広がっていくと。町外の方でもそういう話にはなるんじゃないかなと思ったので、担当課の方はご検討いただければなというふうに思います。
<b>御船委員</b>	役場が「すぐできる」って言ったらできるんです。米田委員さんが言われてて、日帰り入浴だったんですけど、実は、あれ、旅館はすごい苦勞してまして、次の時にはうちは日帰り入浴をやめようと思ってます。いろんなことがありまして、働き方改革、従業員の時間拘束できなくなってきたりずっと24時間ずっと営業することも不可能です。できる旅館もありますけどね。それでプレゼントできたら、日帰り入浴券じゃなくて、お泊まりで家族を招待してあげるぐらいのことを考えていただけるといいなと思います。そしたら、旅館の良さもわかりつつ、理解もできるし、本当の良さがわかってもらえるかなって。その中からいいよねってわかってもらえる成功体験があれば次に繋がるような気がします。
<b>青木座長</b>	ありがとうございました。いわゆる温泉を活用して健康で、なんですけど、温泉を活用して、お互いそれぞれがウインウインになれるという、温泉繋がりっていうことも、実はできてるようでできてない話でございます。一つ一つ、一番大事な温泉という資源をですね、どう活かしたか、今回は健康と言ってますけども、お互いにとってプラスにできるはずでございます、そういう温泉との向き合い方というのを、町が先頭になって、これは考えないけんことなのではないかというふうに、今日の話聞いて思いました。進行がまずくて皆さんには大変ちょっとご迷惑をおかけいたしました、いろんな話を聞かせていただくことができました。改めてまとめながら、またお話を伺いに参りますのでぜひその時はお付き合いをしていただけたらと思います。

では、事務局へお返しいたします。
------------------

#### 4 その他(5 閉会)

**村上課長**

皆様、貴重なご意見ありがとうございました。意見交換のコーナーを一旦閉じたいと思います。次第の4番でございます。その他になります。話題としましては3回目のワーキンググループのお知らせでございます。3回目、次回のワーキンググループ会議につきましては、本日のご意見も踏まえたところで、事務局の方で基本構想のたたき台を作っていきたいと思います。それができましたらば、その会合の場でもって、お示しをしました上で、さらにご意見をいただいて、これを固めていくという作業をしていきたいと思います。改めて、ご参加ご協力をよろしくお願いいたします。

3回目の会合の時期でございますけれども、来年の1月中旬から下旬頃を想定しております。改めて委員の皆様には、日程調整のご依頼を差し上げたいと思います。その上で、出席の依頼をさせていただきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、用意した議題は以上でございます。これをもちまして、本日の第2回のワーキンググループ会議、温泉部会を閉会としたいと思います。皆様遅くまでありがとうございました。雪も降っている中ですが、気を付けてお帰りいただければと思います。どうもありがとうございました。